



2019年3月期
決算説明会

2019年4月26日

株式会社トーマンデバイス

本資料に掲載されている株式会社トーマンデバイスの業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確実の要因によっては、大きく変化する可能性があります。従って、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。

I

2018年度 決算概況

II

2019年度 見通し

III

中期経営目標の進捗

増収増益、売上高と配当額は過去最高

売上高
2,176億円

配当額
90円

ROE
6.7%

2018年度実績(対前期比)

- PCおよびサーバー・ストレージ向けにDRAM増収
- 中国スマートフォン向けに高精細カメラCIS(CMOSイメージセンサー)、MCPが共に増収
- テレビおよびモニター向け減収
- データセンター、車載向けMLCC増収

(百万円)	2017年実績		2018年度実績		対前期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	197,569	100.0%	217,632	100.0%	20,062	10.2%
メモリー	109,292	55.3%	134,496	61.8%	25,204	23.1%
システムLSI	41,048	20.8%	49,163	22.6%	8,115	19.8%
液晶パネル	33,032	16.7%	20,413	9.4%	▲12,619	▲38.2%
その他	14,197	7.2%	13,560	6.2%	▲638	▲4.5%
営業利益	2,598	1.3%	3,528	1.6%	930	35.8%
経常利益	2,428	1.2%	2,639	1.2%	211	8.7%
純利益	1,741	0.9%	1,902	0.9%	161	9.2%

MCP: マルチチップパッケージ。DRAMとNANDの組み合わせのメモリー

2018年度実績(業績予想比)

- 下期よりメモリー市況が反転し、4Q(2019年1~3月期)には大きな価格下落があったが、中国でのCIS販売拡大などにより売上高、営業利益、経常利益は業績予想を上回った。
- 純利益は予想より単体の利益比率が高まったため、連結では予想を下回ったが、前年、及び、2018年4月時点の期初予想(1,760百万円)は上回る事ができた。

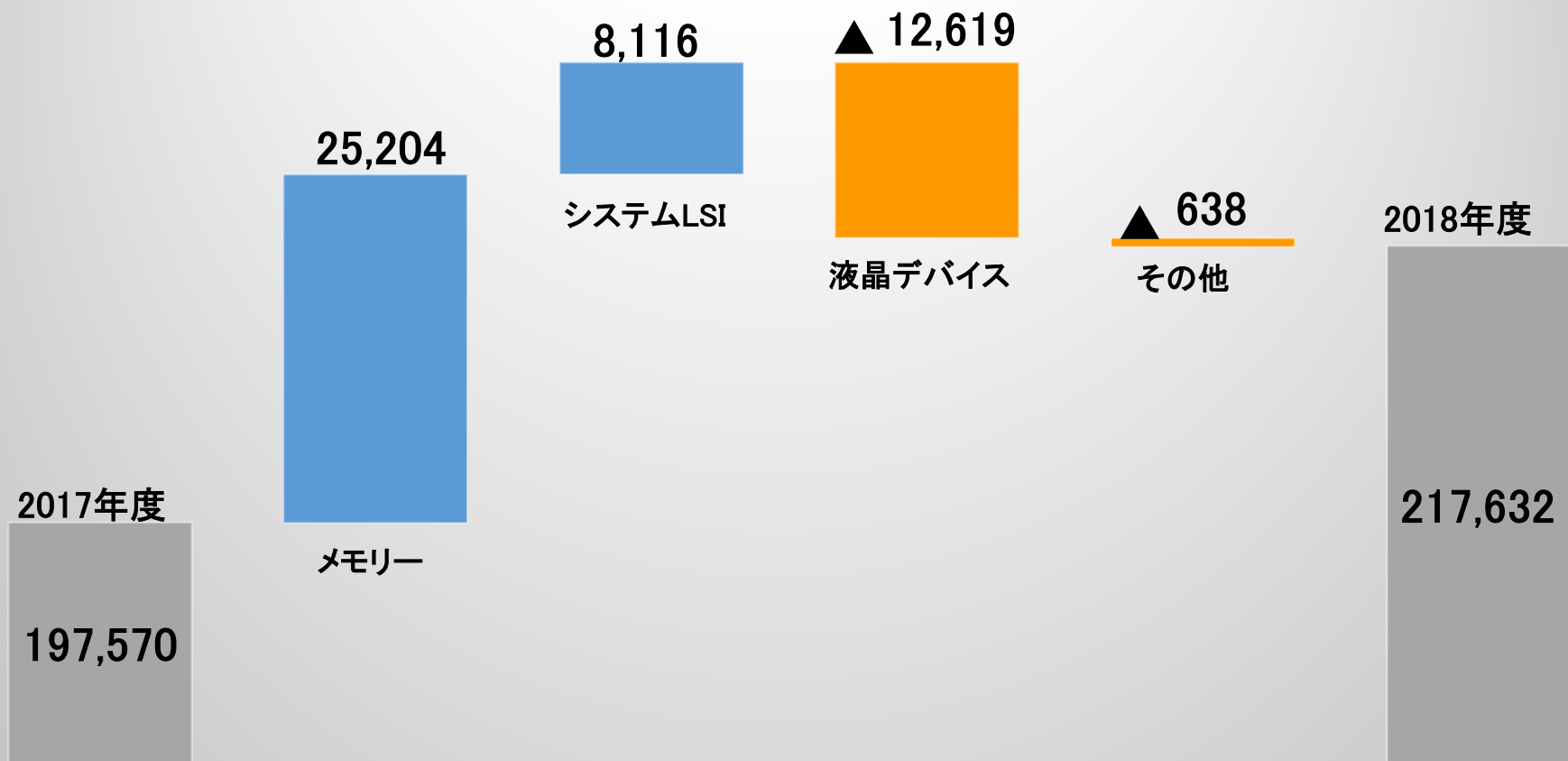
(百万円)	2018年度予想		2018年度実績		対前期比	
	予想	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	215,000	100.0%	217,632	100.0%	2,632	10.2%
営業利益	3,400	1.3%	3,528	1.6%	128	3.8%
経常利益	2,600	1.2%	2,639	1.2%	39	1.5%
純利益	2,000	0.9%	1,902	0.9%	▲98	▲4.9%

* 2018年度予想値は2018年10月26日公表のもの

売上高増減分析(対前期比:商品別)

- + サーバーストレージ向けにメモリー、スマートフォン向けにメモリーおよびシステムLSI拡販
- テレビメーカー向けビジネス低調による液晶減少

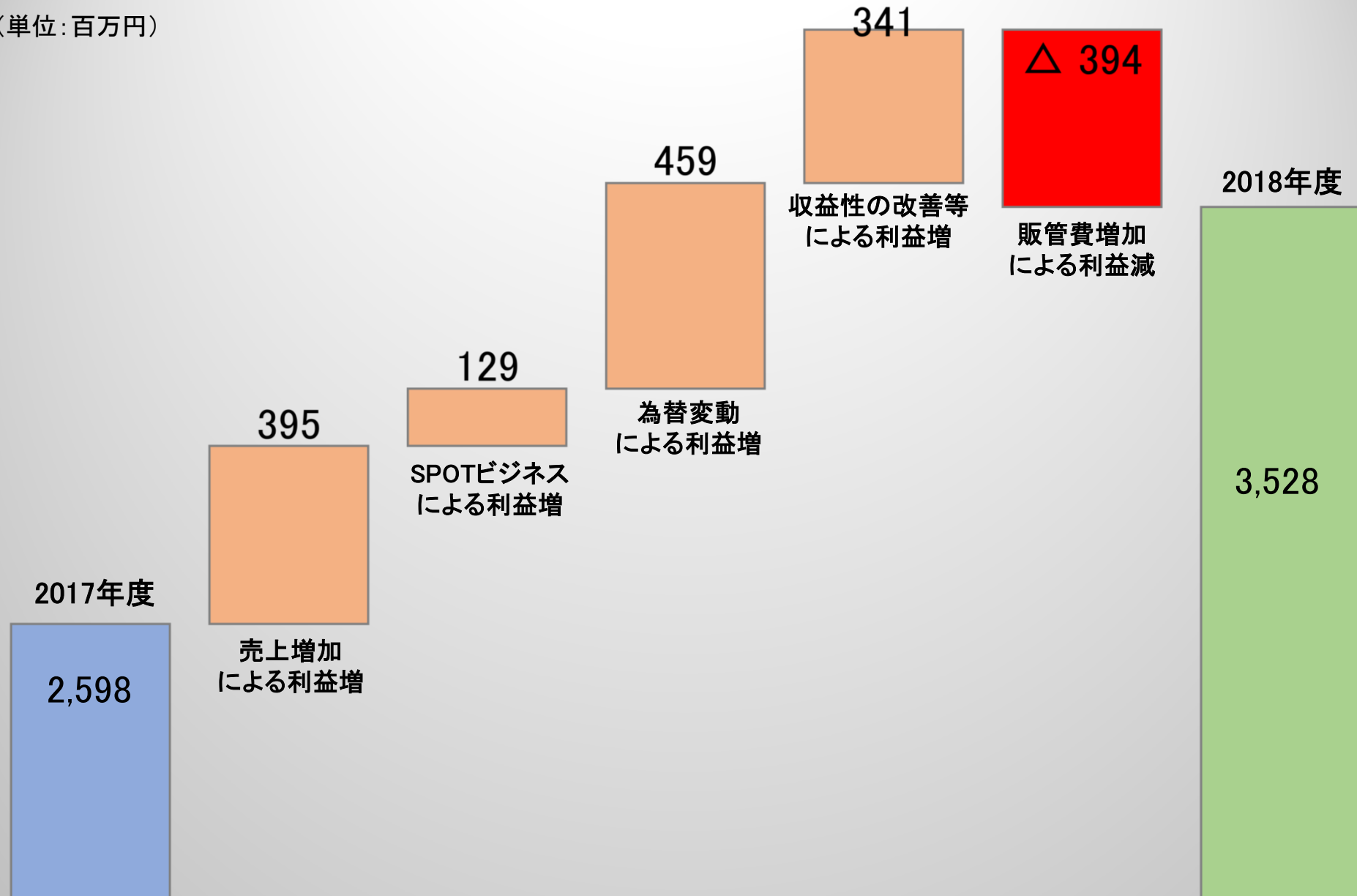
(単位:百万円)



営業利益増減要因

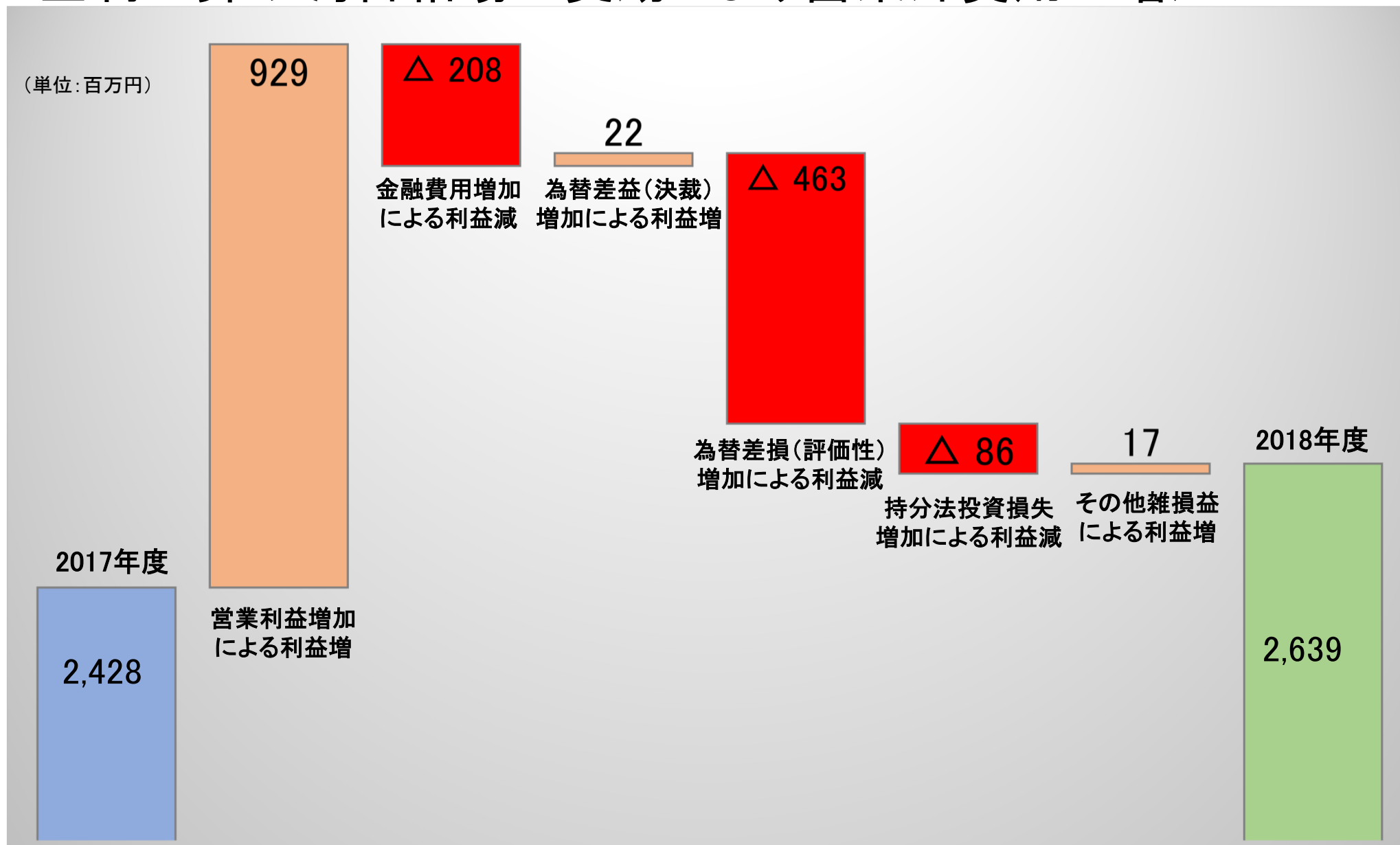
売上増加や収益性の改善等により、営業利益は大幅増益に

(単位:百万円)



経常利益増減要因

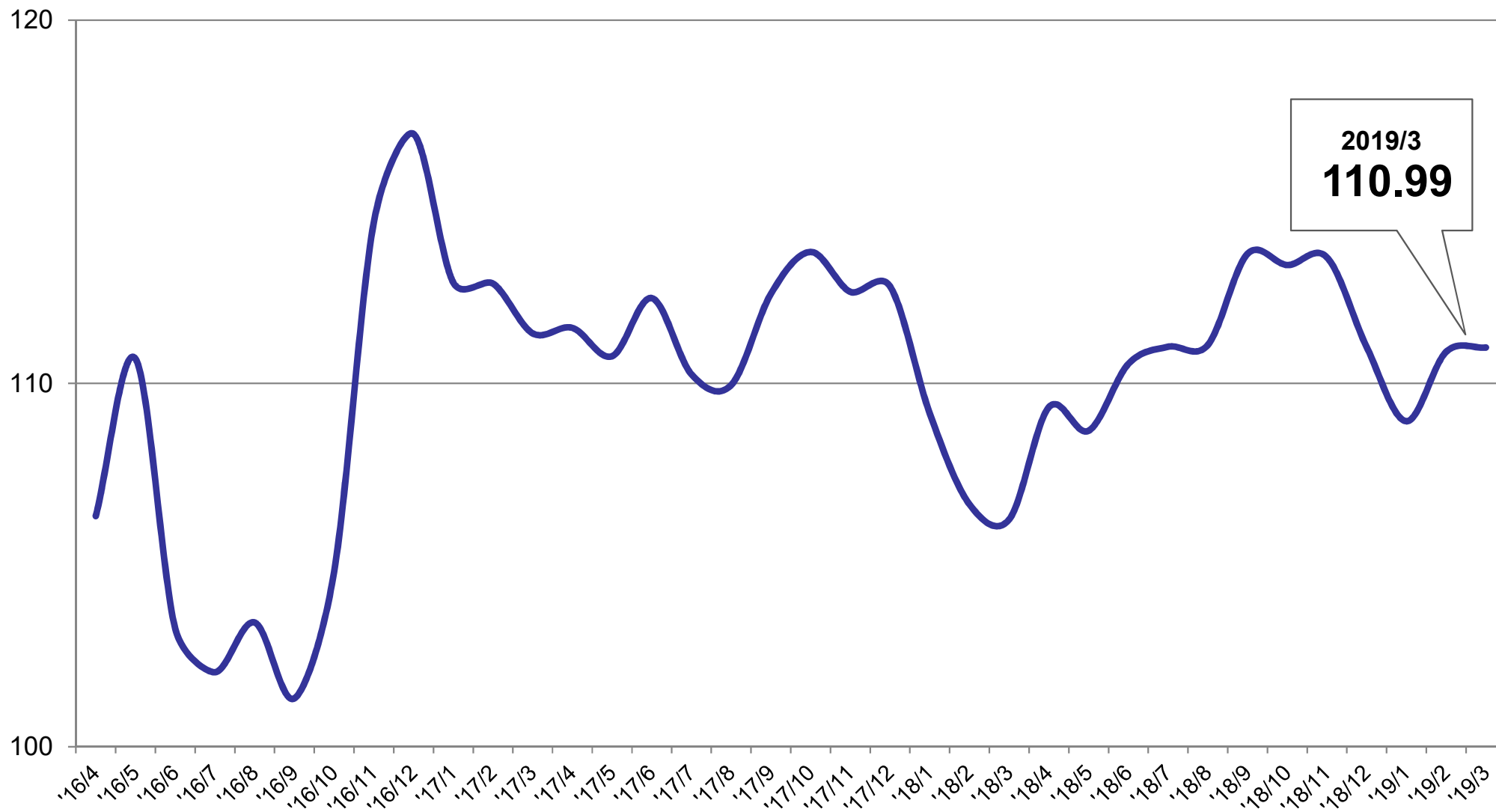
金利上昇や為替相場の変動により営業外費用が増加



為替レート推移 ('16年4月~'19年3月)

(日本円 / US\$)

世界経済の減速懸念から不透明

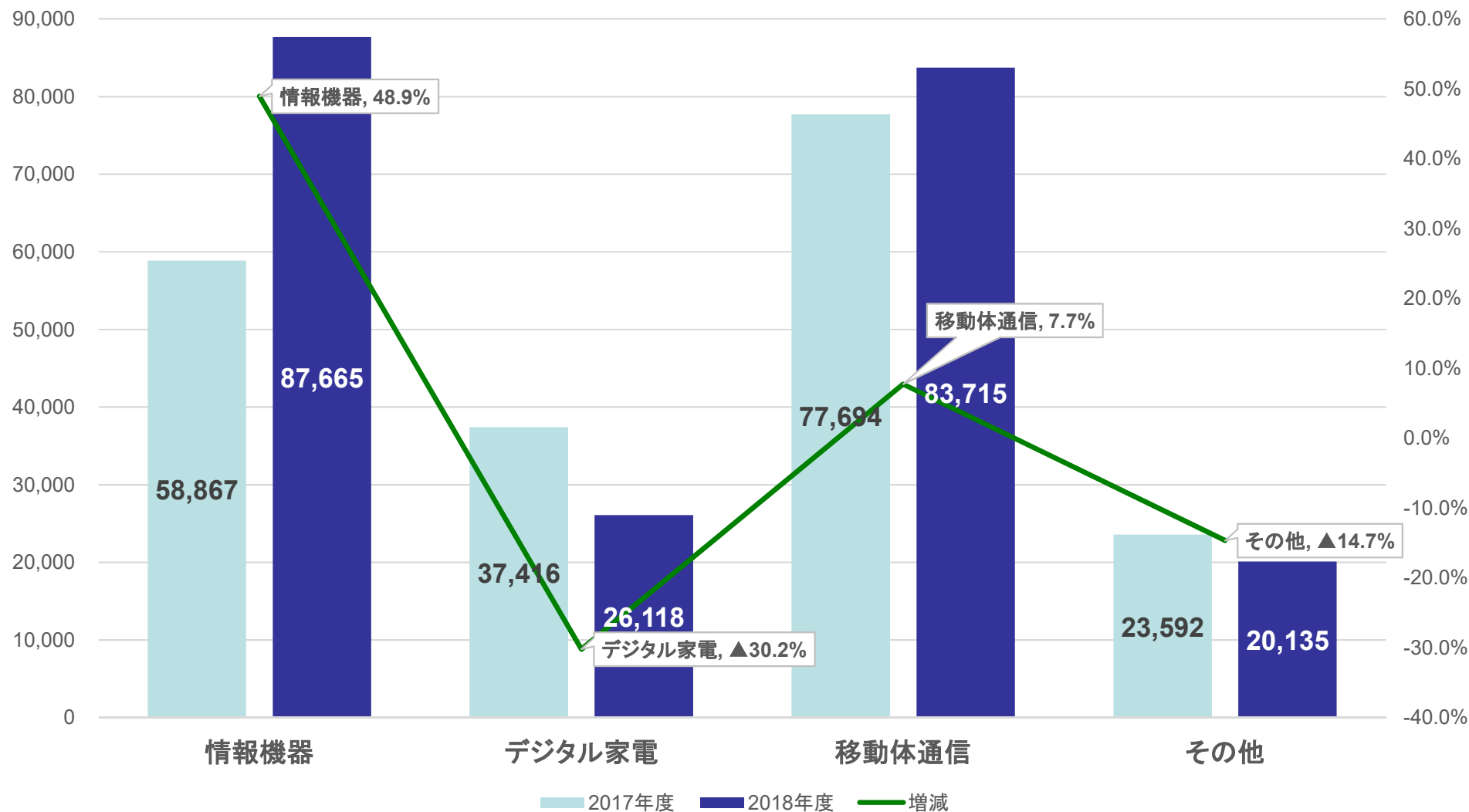


用途別 売上高推移

ストレージ向けメモリーを拡販

(単位: 百万円)

情報機器: PC、サーバー、ストレージ等
デジタル家電: テレビ、デジタルカメラ等
移動体通信: スマートフォン等
その他: NAND Wafer、車載、照明等



用途別売上高増減要因

情報機器 **+48.9%**

- 2019年1~3月期でDRAM価格下落したがNAND含めシェア増
- 中国でサーバー参入、国内で大ロストレージビジネス参入

デジタル家電 **▲30.2%**

- 液晶テレビバックライト用LED減収
- 液晶テレビ用ディスプレイドライバーIC販売苦戦

移動体通信 **+7.7%**

- 中国スマートフォン向けCMOSイメージセンサの売上伸長
- 高容量化により、中国スマートフォン向けにメモリーを拡販

その他 **▲14.7%**

- 中国でNAND Waferビジネスが減少

10円増配、過去最高の配当額

(単位:円)



I

2018年度 決算概況

II

2019年度 見通し

III

中期経営目標の進捗

2019年度業績予想

- メモリー市況低迷が長期化する懸念はあるが、単体では事業譲受の効果が通年ででること、中国では新規案件開拓の余地があることから、2018年度並の業績を予想。

(百万円)	2018年度		2019年度業績予想		対前期比	
	実績	構成比	予想	構成比	増減額	増減率
売上高	217,632	100.0%	210,000	100.0%	▲7,632	▲3.5%
メモリー	134,496	61.8%	130,529	62.2%	▲3,967	▲2.9%
システムLSI	49,163	22.6%	47,483	22.6%	▲1,680	▲3.4%
液晶パネル	20,413	9.4%	17,650	8.4%	▲2,763	▲13.5%
その他	13,560	6.2%	14,338	6.8%	778	5.7%
営業利益	3,528	1.7%	3,000	1.4%	▲528	▲15.0%
経常利益	2,639	1.3%	2,650	1.3%	11	0.4%
純利益	1,902	0.9%	1,910	0.9%	8	0.4%

Positive

- 事業譲受けによる事業規模拡大(単体)
- データセンター等ストレージビジネス拡大
- 中国スマホ・カメラの高精細化加速

Negative

- 国際情勢の不安定化、為替リスク
- 供給過剰によるメモリー市況更なる下落
- 先進国中心に、スマートフォン需要一段落化

国内市場

- サーバー・ストレージ向け NAND FLASHの拡販
- 車載ビジネス深耕

中国市場

- NAND FLASH拡販
- Foundryビジネス拡大

2019年度の商品別重点取り組み事項

メモリー

- データセンタ向けのメモリービジネスの拡大
- NAND Wafer、単品ビジネスの拡大

システムLSI・ Foundry

- 先端プロセスファウンドリー拡販

液晶デバイス

- テレビ市場でのシェア確保

その他

- 設備、電池、MLCC拡販

売上高増減分析(対2018実績比:商品別)

データセンター向けのNAND FLASH(ストレージ)ビジネス拡大も価格下落の影響で売上高は減少

(単位:百万円)

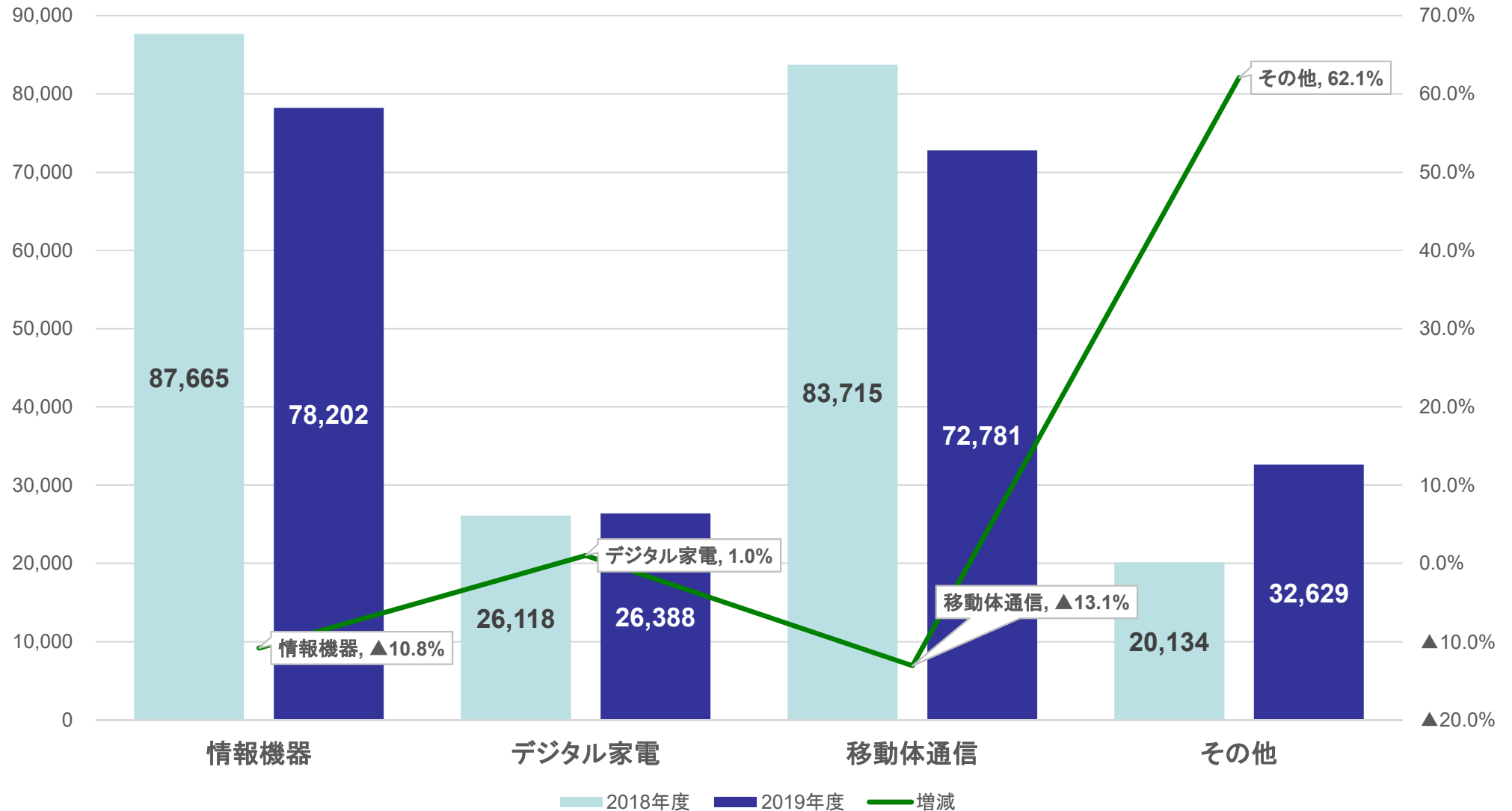


用途別 売上高推移

車載関連ビジネスの拡大

情報機器: PC、サーバー、ストレージ等
デジタル家電: テレビ、デジタルカメラ等
移動体通信: スマートフォン等
その他: NAND Wafer、車載、照明等

(単位: 百万円)



用途別売上高増減要因

情報機器 ▲10.8%

- ・メモリーの価格下落長期化懸念
- ・サーバー・ストレージ向けにNAND FLASH(ストレージ)拡販

デジタル家電 1.0%

- ・テレビ向け苦戦→液晶テレビバックライト用LED、液晶テレビ用ディスプレイドライバーICは共に厳しいと予想

移動体通信 ▲13.1%

- ・スマートフォン市場の成熟化による減収
- ・中国市場の不透明感

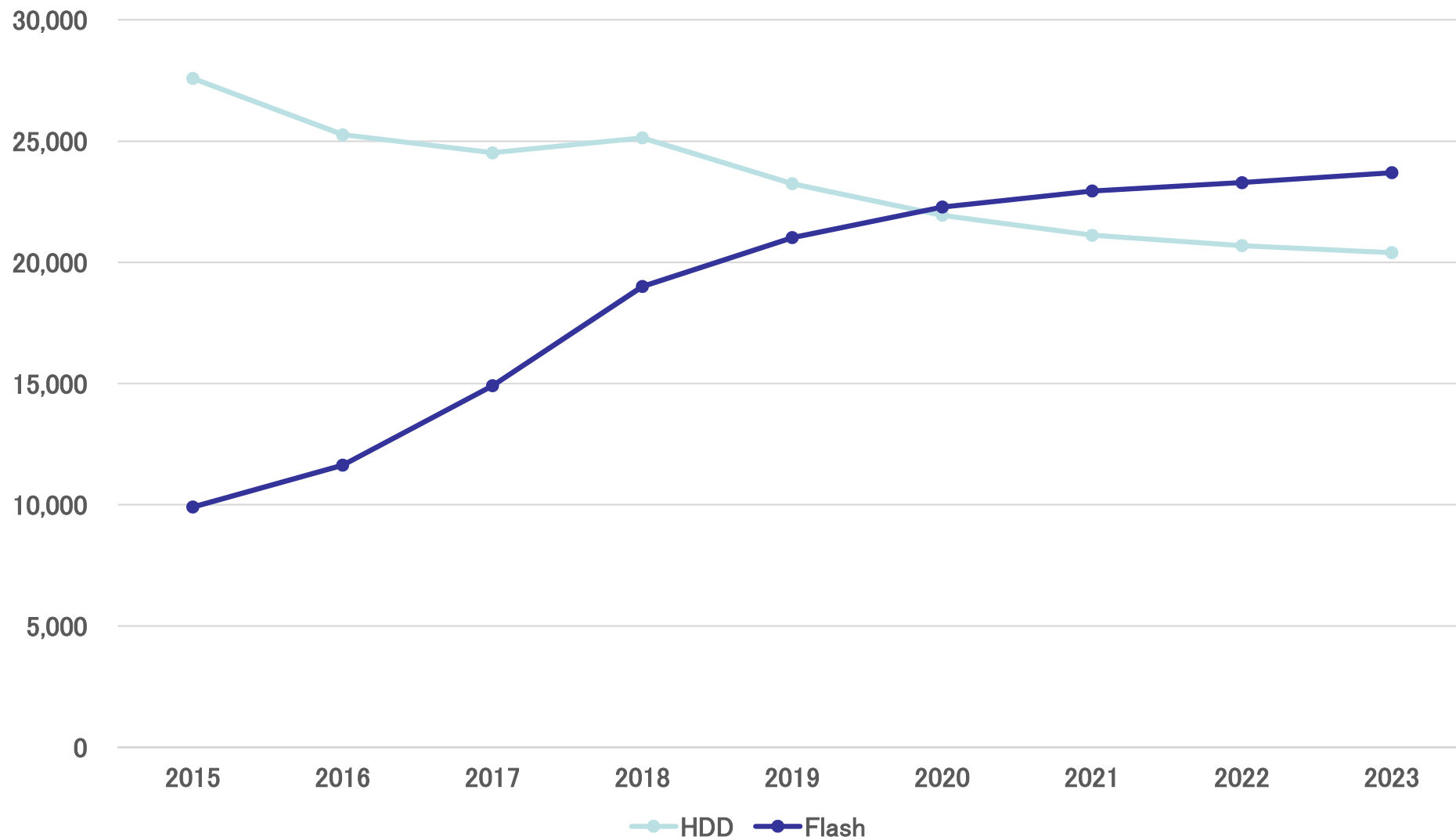
その他 +62.1%

- ・ NAND Wafer再拡販、車載向けMLCC拡販

フラッシュストレージ市場予測

HDDは縮小に向かう一方、フラッシュは拡大傾向

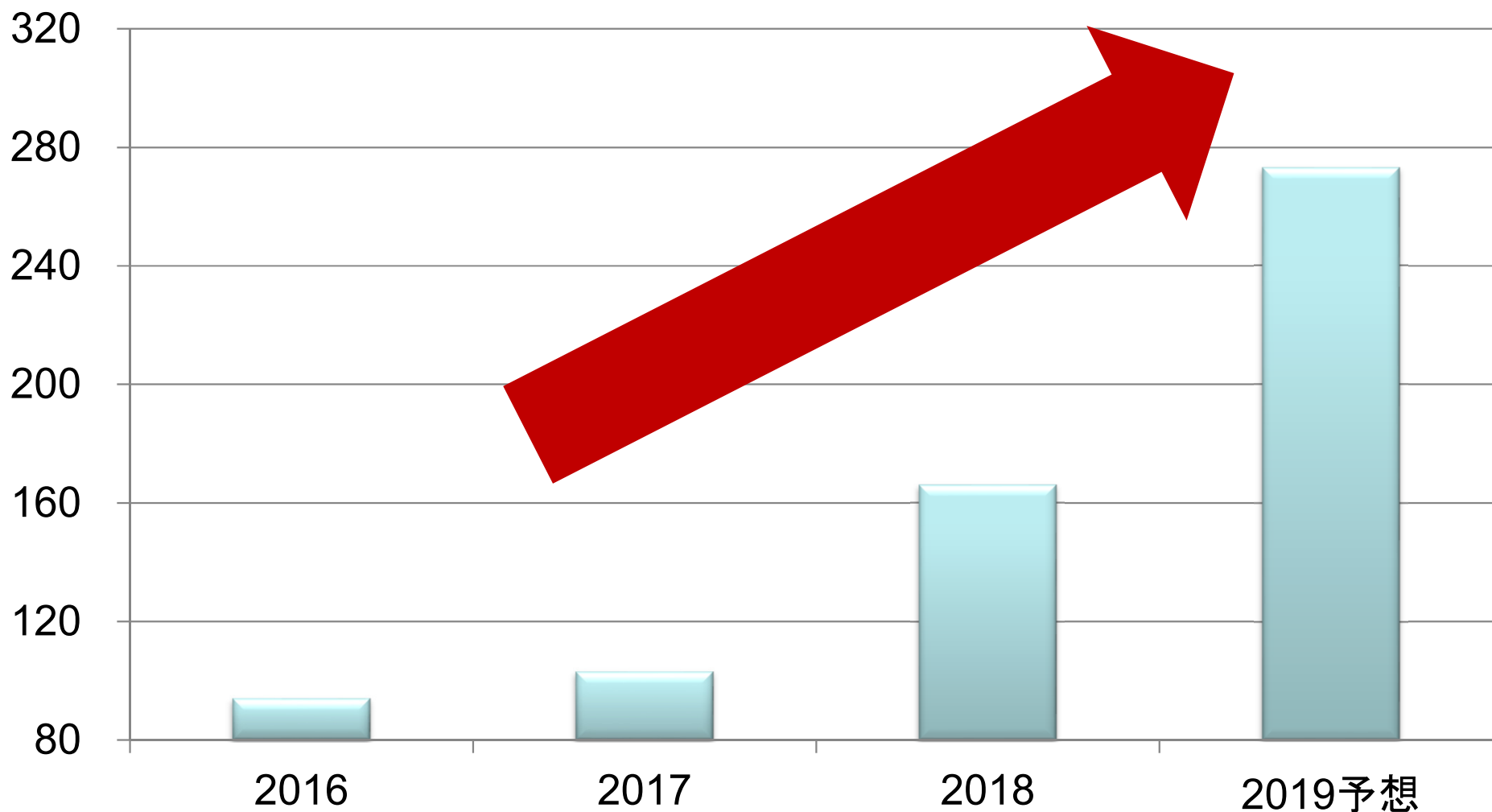
(単位: \$ M)



(出所) 各種資料をもとに当社で作成

サーバー・ストレージ、データセンター 向け中心にNAND FLASH、SSDを拡販

(単位: 億円)



I

2018年度 決算概況

II

2019年度 見通し

III

中期経営目標の進捗

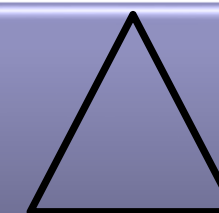
2020年度までの達成目標

連結売上高2,000億円



- 2018年度に前倒しで達成(2,176億円)

ROE 8%



- 2018年度6.7%へ改善
(参考)2016年度:4.8% 2017年度:6.4%
- 更なる業績拡大と経営効率化

1. サーバー・
ストレージビジネス
の拡大

2. 車載ビジネス
深耕

3. 海外ビジネス
強化

4. 新規ビジネス
モデル立上げ

1. サーバー・
ストレージビジネス
の拡大

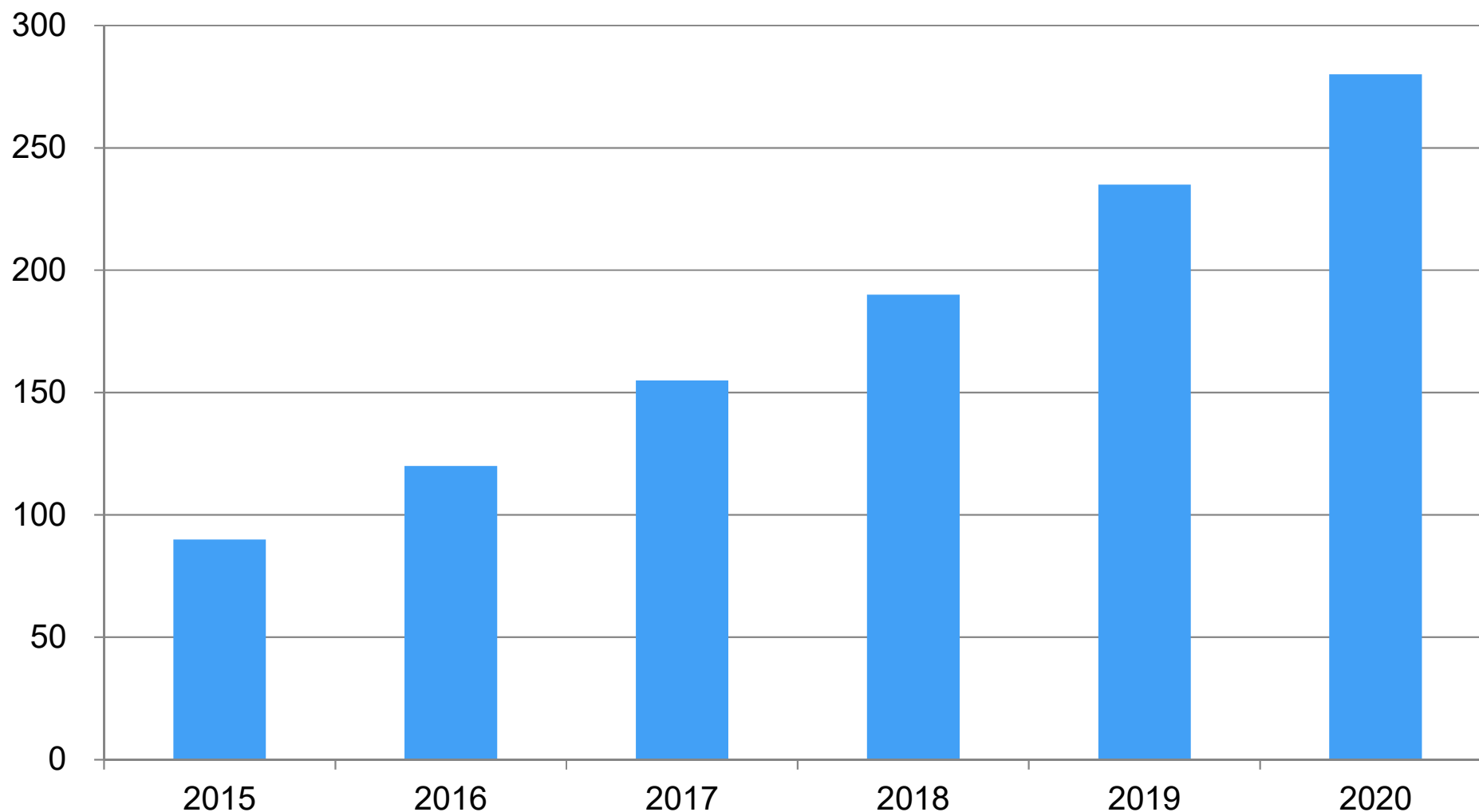
2. 車載ビジネス
深耕

3. 海外ビジネス
強化

4. 新規ビジネス
モデル立上げ

国内ビッグデータテクノロジー／サービス市場規模推移

(単位:十億円)



各種資料をもとに当社で作成

1. サーバー・
ストレージビジネス
の拡大

2. 車載ビジネス
深耕

3. 海外ビジネス
強化

4. 新規ビジネス
モデル立上げ

オートモーティブ営業推進チームの活動

車載向けビジネスの販売強化のため、社長直轄の「オートモーティブ営業推進チーム」が活発に活動

メンバー: 各部門の車載関連営業担当者(全営業人員の約30%)

- 車載顧客向けに個別展示会の開催
- 車載ビジネスで豊富な実績のある豊田通商社から人員を補強
- 部署の垣根を越えて情報共有を行い、市場開拓を推進

メモリーはD/Iが進展。メモリー以外の商材を提案、種まき中

LED

ランプ・インテリア照明
向けにLEDを提案

有機EL

車載向け有機EL
のプロモーション
強化

車載関係

AP (Application Processor)

ADAS、自動運転・IVI向
けにD/I

サポートの徹底に
よる商権確保

MLCC
バッテリー

D/I: デザインイン

1. サーバー・
ストレージビジネス
の拡大

2. 車載ビジネス
深耕

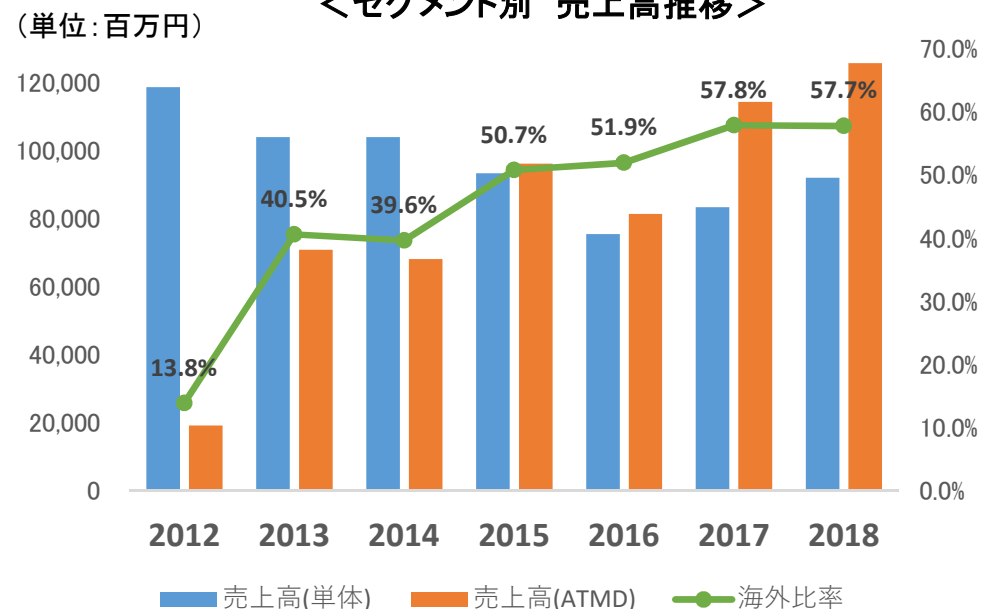
3. 海外ビジネス
強化

4. 新規ビジネス
モデル立上げ

海外(ATMD)のビジネス拡大

海外子会社(ATMD)の売上比率増加

＜セグメント別 売上高推移＞



既に連結で50%超の
売上比率

更なるシェア拡大に向け

- ✓ 既存ビジネス ➡ 継続しスマホ向けビジネス拡大
- ✓ 車載ビジネス深耕 ➡ 車載向けD/Iの仕組み構築
- ✓ 新規ビジネス ➡ ファウンドリービジネス拡大
- ✓ 第3の市場開拓 ➡ インド市場開拓

デジタル革命に乗り、業績拡大を目指す

データセンター (DC)市場

- DC市場は、日本、中国に続いて、アジア第3位の規模
- 電子政府化計画により、同国のDCプロバイダは能力拡大

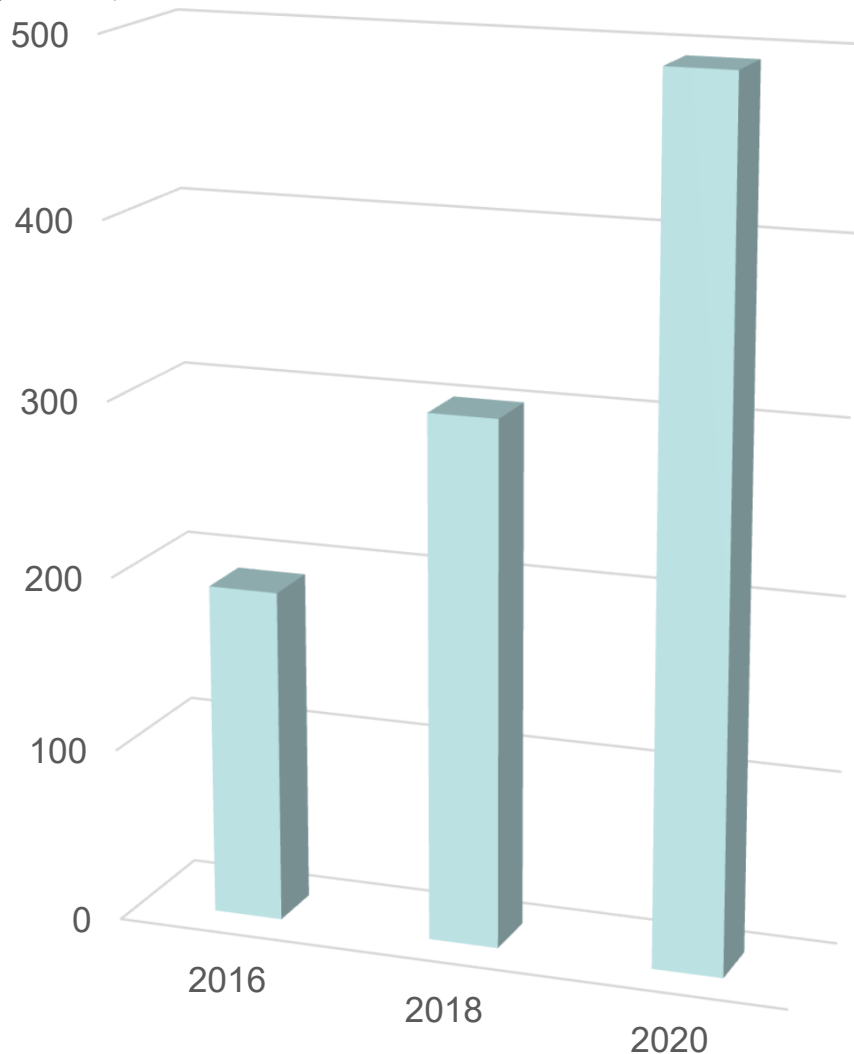
スマートフォン 市場

- 中国に続く世界第2位のスマートフォン市場へ成長
- 4Gの普及も発展途上であるため、更なる成長に期待

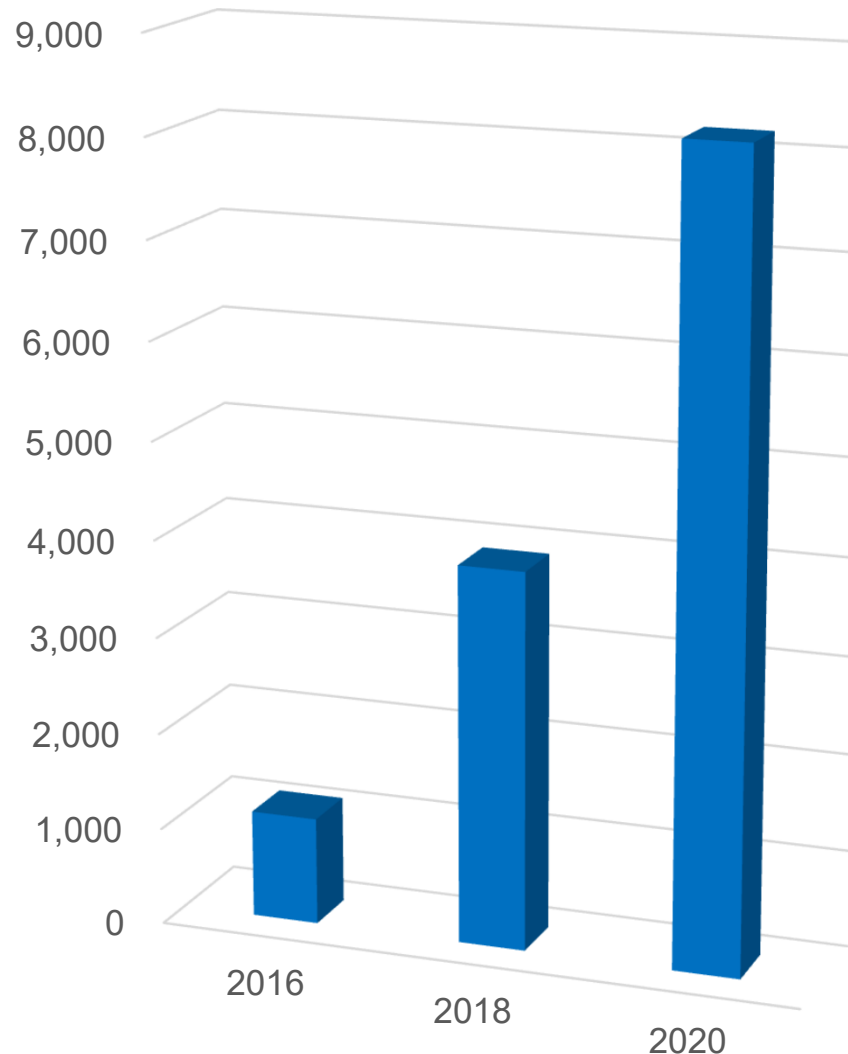
Forecast for Server DIMM

Forecast for Server SSD

(単位: MGb)



(単位: PB)



(出所)各種資料をもとに当社で作成

1. サーバー・
ストレージビジネス
の拡大

2. 車載ビジネス
深耕

3. 海外ビジネス
強化

4. 新規ビジネス
モデル立上げ

新規ビジネス(モデル)の立上げ

あらゆる分野より将来性、採算性を見極め

設備ビジネス
産業用バッテリー

採算性を確保しつつある

サイネージ

LEDサイネージ拡販を模索中

ステレオカメラの新規ア
プリケーションを発掘中

養殖管理、道路管理など

IoT関連

サムスン電子、電機、SDI製
品での市場開拓中

ご清聴ありがとうございました

Customer

Samsung

Tomen Devices

```
*include "BGInb.h"
*include "BGConvertToYuvSW.h"

void greyscaleToY(b_GlobalsPtr
if(SK_ALL_C
register short i;
register short nlines = glob->tes
register long *localImagePtr = (
register long *y1_yuv = (long*)
er long skipElms = rowByt

localImagePtr++
localImagePtr++
+= skipElms;

ck_Height-nlines )
register long temp1 = y1_yuv[2
register long temp2 = y1_yuv[3
```